

KSKP**Threshold**

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.45

～すれっしょんど～ (出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュョルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です



回復の日々

依存症者にとって年末というのは決して楽しいものではないということを知って欲しいと思い今日は書かせていただいています。私たちは薬物をやめたくてもやめられない頃の年末年始というのは、それは悲惨なものでした。街は騒がしくなり、夜はクリスマスのイルミネーション、幸せそうな家族、カップル・・・その光景を尻目に私たちが支配していたのは「孤独」でした。一年で一番寂しくなるんですね。そんな時にその苦しさから逃れる唯一の方法は薬物を再使用することでした。さすがに年末年始は薬物を使ってもなんの恍惚感もありませんでした。

神戸ダルクは開設してから8年間、年末年始はスタッフも仲間たちとずっと一緒に過ごします。ここだけは大きな予定が入っても譲れません。いままでの年末年始に見えているカラーを変えるととても大切な時間になっています。そんなことを書きながらも、街にはこの瞬間にも、当時の私たちと同じ気持ちの依存症者が希望を失って寒空を見上げていることも忘れてはいけないと思います。自分たちだけ助かればという気持ちは、自分の内面にあるあの苦しみを解放してくれません。特に刑務所から出てきた仲間と過ごす年末年始は格別です。ダルクで過ごす年末年始って、それでも自分の求めているものではないかも知れません。だけどそれすらない人生から抜け出せなくなっている人への希望にはなと思っています。神戸ダルク開設初年度のクリスマス会で、刑務所から出てきたお爺さんが、会の終わりに大きな涙を流しました「わたしはこんなに楽しいクリスマスを過ごした記憶がない」と。その言葉があったから、今でもこの行事は続いているのかも知れません。

写真の通り、社協さんにも表彰していただきました。みなさま良いお年をお過ごしください。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18 ←郵便物はこちらへ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

西宮ファミリーカウンセリングオフィス

〒663-8177 兵庫県西宮市甲子園七番町 9-18 H2O 甲子園 303 TEL 078-600-9525

共同生活援助(グループホーム) リカバリーホーム TEL078-647-7744 (神戸市須磨区)

リカバリーホーム 2&3 TEL078-764-6988(神戸市垂水区)

SPEAK EASY(タコス&お弁当販売) 神戸市長田区久保町 3-6-9 1F TEL 078-584-3902

指定就労継続支援 B 型(10 月より)事業所 ぱっくやーど 神戸市長田区久保町 3-6-9

姫路アディクションサポートセンター Tel 079-255-5033

智頭リトリートヴィレッジ 〒689-1411 鳥取県八頭郡智頭町八河谷杉の木ランド テニスコート下

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

沖縄の同志からのたより

DARC 大きな和 代表 杜宙樹

11 月 20 日に本格的「風の時代」に突入しましたね
沖縄宮古島の DARC 大きな和の杜宙樹(かげとら)です
多様性、個性の新たな時代。
「将軍」がハリウッドで史上最多の賞をとり益々日本が
注目、日本人が大活躍の時代です
この国で生まれたこと自体が幸運、そしてこの国で
回復成長していける事が神様からのギフトです。
アディクトとして誇りを持ち、先祖への敬意と感謝を込め
て戦国時代の書状風で梅ちゃんへの感謝の意を込めて
のメッセージです



播州国城主(神戸ダルク代表) 梅田靖規殿、

今さらながら貴殿の安寧を祈り、この書状をしたための次第である。

播州国(神戸、姫路)の地にて武門の志(回復支援)を抱き、共に歩む戦友なる事に感謝せり。

我らの出会いは、常陸国の学舎(茨城ダルク)にてなされた。気がつくとも早 17 年の歳月が流れたり。振り返れば拙者が四十四歳の折、貴殿は三十四歳にて運命の糸に導かれ、依存症と言う厄病からの回復を目指すため、常陸国の学舎(茨城ダルク)にて出会ったことが実に運命的であったと感慨深く思い返す。互いの壮絶で絶望的、痛み苦しみの刹那な人生を分かち合える者達との出会いが、新たな生きる力となった事は何にも代え難いものである。あの頃を振り返ると、共に食した同じ釜の飯、語り合った夢や希望、そして心に巣くう再発の恐れやこれからの生活への不安が思い起こされる。将来に対する不安を抱えつつも、共に回復の道を歩んだ日々は、今も我が心に深く刻まれていること、決して消えぬ思い出である。

暗闇から脱出ができ、あの場で貴殿と交わした言の葉は我にとって大きな励みとなった。

「我らのこれからの人生、必ずや再起し、豊かさを手に入れ味わい尽くそうぞ!!」との言葉は今も我が耳に響いておる。あの言霊の背後にある貴殿の気概には、今も触れるごとに心を奮い立たせられ、勇気をいただいております。

また、思い起こせば、私たちの魂の同期であった前・近江国城主(前・東近江ダルク)高嶋至殿が、先般逝去されてしまい誠に残念無念で堪らぬ。彼もまた、我々と同じ時を共にし、夢を追い続けた心の友であった。あの豪快な笑顔や鋭い視点、生きる気迫は、我々に大きな支えを与えてくれたこと、決して忘れてはならぬ大切な思い出であり、彼奴の分までしかと生き回復を続けねばと心しておる。

時は流れ、常陸国学舎(茨城ダルク)での生活が一年が経ち、我々はそれぞれの道を歩み始め、我は琉球国(沖縄ダルク)へと旅立った。その後も友情は、距離を超えて益々深まり、時が経つほどにその結びつきが強まることを実感している。昨今も、心が苦しく辛いと感じる時にはお互いに連絡を取り合い、再会することで互いに力を与え合ってきた。貴殿との親しき関係は、いかなる時も我に安らぎをもたらし、その大切な存在に感謝してもしきれぬ思いである。

さて、現在、我々はそれぞれの戦場(地域社会)において、人々を助ける者として日々奮闘している。これからは、互いの強みを結集し、協力し合うことができるのは、まさに夢のような好事であろう。数多の苦難を乗り越えて築き上げたこの友情は、単なる友人関係を超えた貴重な宝物である。この成長の道を共に歩むことで、互いに学び、支え合い、我々が絆は一層深まることを実感している次第だ。

近い日に、再び共に広き世界で活動できる日を心より待ち望んでいる。貴殿とあの常陸国学舎(茨城ダルク)で抱いた無邪気な夢を実現するために共に手を携え、多くの人々に良き影響をもたらす活動に励んでいきたいと考えている。さらに、共に歩む道を支えてくれる人々とも手を取り合い、共に志を果たすべく力を尽くしたく存じる。

今回この書状(ニュースレター)にて、我々の出会いとそれまでの苦難、回復への道のり、そして未来に向けた希望を、多くの人々に伝えられればと願っておる。困難な時期にあったためこそ、より親しき友情が育まれ、今なお支え合える存在であることこそが、何よりも嬉しいことである。

最後に、貴殿との共なる一瞬一瞬が、我にとってかけがえのない宝であり、共に支え合いながら進んでいくことが、我らの大きな新たな夢を叶えるため儘ならぬ道となるやもしれぬ。今後とも、貴殿との絆を大切に

しつつ、共に夢を追いつけられれば幸いと願う。そして共に新たな挑戦に励んで参りたい。我々の未来が明るいものとなるよう、我らで力を併せて取り組んで参ろうぞ。
時の流れに逆らわず、共に成長し、より良き未来を築いていくためのお力添えをお願い申し上げます。
貴殿の幸運と安らぎが常に共にあらんことを祈りて、

令和六年霜月

琉球国宮古島城主 杜 影虎

(一般財団法人 DARC 大きな和 代表 杜宙樹)

おかげさまで、財)DARC 大きな和は、宮古島でダルク/ニューリバイバルアカデミーの活動から 3 年
沖縄北谷町で絆愛こころクリニック開院から 2 年が経ち、地域に根付いた活動を続けております。
今度とも神戸ダルク共々よろしく願いいたします <https://www.darc-foundation.com/>

あいあいまつりに参加して エイサー演舞

木津川ダルク チャン

初めまして、私の名前はチャンと言います。現在、43 歳です。
今回私は神戸ダルクのエイサーに参加させていただきました。

私は現在、木津川ダルクに入寮して先月で、1 年を迎えました。

私は初めてダルクに繋がったのは、7 年前で約 3 年間薬物依存症の回復プログラムを受けました。

その時にプログラムで沖縄のエイサーに出合いエイサーの楽しさに目覚めました。

その時はとにかく、薬、シンナーを止めたい一身で神戸ダルクに入り、今まで刑務所を出たり入ったりの繰り返しでした。

ダルクに入りプログラムを受けて自分の薬に依存している病気の事や、自分の生きずらさや、自分を知ることや同じ傷を抱えた、仲間、とは・等々。少しずつ回復に向けての日々を送ることに目を向けて行きました。その時思ったことは、とにかく助けてほしかった。自分と家族又友人周囲の人たちを薬の使用で傷付けて来て、身も心もボロボロでした。

私がダルクに繋がって学んだ事は、自分に正直になる事を学びました。自分に嘘をついて自分を隠して薬を使い続けて、大切な人大切な時間を無駄にして来ました。プログラムを通してシラフで生活して行くことの辛さもありますが、その反面シラフだからこそ楽しめる事が多い事も気付きました。

そうして行く内に、仲間の大切さに気づいていき、今まで自分の事が大嫌いでしたが、自分という人間の尊さ又価値観等を先行く仲間に教えて頂きました。

私は神戸ダルクで、エイサーを教えて頂きエイサーの難しさに練習が苦痛な時もありましたが、仲間達と一緒に、一つの曲を完成させた時や披露した時の達成感や充実感を味わう事ができて、エイサーがとても楽しくなって来ました。私が木津川ダルクに入り、神戸ダルクの施設長に出会う事があり、こっちの仲間達にエイサーを教えてあげて欲しい。と頼まれて、助っ人としてエイサーを教えに行くことになりました。

その時お披露目として、あいあい祭りに参加する事を聞き、約 1 ヶ月の猛特訓が始まりました。

練習を重ねていくうちに、私自身が同時の仲間に教えてもらった様に次は自分が教える立場にはなり、神戸の仲間達と共にエイサーを通して、回復の楽しさを伝えました。

とにかく、過去の薬でズブズブにだった暗闇の洞窟から抜け出して、今では陽の当たる場所がダルクを通して自分の居場所の一つなんだと思える様になりました。

今回、神戸ダルクの仲間達とあいあい祭りに参加させて頂き、とても有意義な時間を過ごした事にとても感謝してしています。

最後に、薬物依存症の私が思う事は自分達にも必ず居場所がある！決して 1 人ではない！

という事をお伝えして終わりの言葉とさせて頂きます。

神戸ダルク又木津川ダルクの施設長様、神戸ダルクの仲間達、スタッフさん方のお陰様で本当に貴重な時間を与えてくださりありがとうございました。



あいあい祭に参加して

スタッフ いしい

10月26日にひょうごこころの医療センター主催の秋のあいあい祭に神戸ダルクヴィレッジのお手伝いということで参加させていただきました。神戸ダルクヴィレッジとしては毎年のようにエイサーと沖縄タコスの出店で参加させていただいて毎年盛況だったと噂は聞いていたのですが私自身参加させていただくのは初めてでした。

ダルクの利用者達はあいあい祭に参加するためにエイサーの練習を毎日のようにしたり、沖縄タコスの出店準備も数日前から行ったりと、とても忙しそうでした。気合を入れていつもよりがんばっていたように思います。

当日は舞台のある講堂で行われました。他の福祉施設や病院の関係者の方も出店したり舞台上で発表されたりしていました。テーマがハロウィンだったこともあり仮装をしている職員さんや参加者がたくさんいてにぎやかな雰囲気でした。

福祉の事業所でつくったものを売ったり、デイセンターの練習の成果を舞台上で披露したりと障害のある人や、病院の患者さんが日ごろの成果を発表する場になっているのだと感じました。神戸ダルクヴィレッジの利用者も同じようにエイサーを踊って拍手してもらったり沖縄タコスを販売して、病院の先生方や相談員の方、その他患者さんなどたくさんの人に食べていただいておいしかったと言ってもらったりすることはとても嬉しいことでこれからも頑張ろうという活力や回復の一助になったのではないかと思います。

私は今回沖縄タコス販売の会計をお手伝いさせていただいただけですが、タコスの売れ行きは上々でエイサーも少人数ではありましたが利用者達の成長を感じることが出来ました。毎年のようにこのような機会を与えてくださるひょうごこころの医療センターとのつながりを大切に、今後とも利用者を見守っていきたいと思いました。



森林植物園紅葉

コウシ

こんにちは、アディクトのコウシです。自分は以前いたダルクのプログラムで紅葉を見る散歩プログラムがあり普通の紅葉を歩くだけでしたが、有料で、沢山の紅葉を歩いて鉛筆と絵の具を使って絵を描いたのは初めてです。

最初紅葉を歩いて沢山あり紅葉にも種類があり、きれいだなあと思いました。そして、小学生の頃以来一回も描いたことのない絵を描きました。最初描こうと思った所は、色んな木が沢山あり描きにくそうで、描いているうちに嫌になってくると思い、描きやすい所を選びました。そして絵を描きました。

一人で描いてました。鉛筆で下書きをして仲間がうまいと言ってくれてうれしいと思いました。絵の具で色を付けているときも、通りすがりのお客さんが、うまいと言ってくれうれしいと思いました。仲間から後で聞いたのですが、自分が描いていた所はこの森林植物園の中でも有名な場所でスマホで写真を撮ったりしている人などが多く、その中で絵を描いていたら、自分の気付かない所で、絵を描いている自分をすごいなという目で見えたり、すごいな、など言っていたらしく、寒さと、残り時間と戦いながら描いていたので一生懸命というのはやっぱり伝わるもんだなと思いました。

そしてその絵は1日では描き終わらず、木曜日に20分、日曜日に何時間もかけて、描き終わりました。みんなが絵を描き終えた最後に、ウメさんがワークショップというみんなの絵を見たり紅葉を歩いて、絵を描いているときどうだったかを聞いて、セラピーをするというも行いました。そのとき、絵を描いていたら左脳が働く聞き、左利きで2日で描き終えた自分の左脳はめちゃくちゃきたえられたと思いました。

ワークショップのときにも、ウメさんの話を聞き今まで理解していたことでもっと深い意味があったりと、為になりました。紅葉を歩いたり、絵も描き終わるのに時間がかかりましたが、描き終えた頃には上手いこと描けて良かったと思ったり、達成感があったりして、良かったと思いました。



私の体験談

ヤマシタ

10 月 23 日に神戸刑務所から出所した覚せい剤依存症のヤマシタです。出所して約1ヶ月になります。

今回出所して社会生活から離れていたこともあり強く感じたことは、普通の人達は、細かなことで感動したりする事で日々を過ごしているのだなぁと思いました。

薬を使っていた頃は、毎日忙しくて感じることはできませんでした。花を眺てきれいだなと思ったり紅葉のシーズンですが、紅葉を見たりして時間を取ったりしていることに薬を使っていた頃は何と無駄な時間の使い方をしていたんだなと思います。

デートは、ラブホテルかゲーム屋、インターネットカジノ位です。

映画を観たりウィンドウショッピングしたりというデートは、したことはありません。

神戸ダルクはプログラムが多いので大変です。NA ミーティングに毎日参加するのですが、最初は薬にまつわる話を無我夢中で話していたと思います。でも、ここに長いこと来ている仲間って薬の話をぜんぜんしないんですよ。

それは自分でも気が付いていくんですけど「昨日、こういうことがあった」とか「こういう人にこんなことを言われて嫌だった」とか「これ楽しかった」とか、あれ！薬以外の話もしているなって思って。薬のことを話してすっきりしたら、薬じゃなくて、自分の生き方の問題というか、何か生きづらかったんだらうとか…。そういえば、働いているとき「嫌われたくない」というのがあったんですけど、それは自分を守るための方法やったとか、たとえば彼女にできたこととか、過去に自分がしてきたことを話すようになったり、ミーティングで話すことは変わってきました。

これからも今日だけを大切に生活していこうと思います。



私の体験談

オカジイ

私は今年の 11 月に京都刑務所より仮釈放を貰って、この中間施設につながりました。前回も同じ施設につながったのですが、辛抱が足らなかった結果がこの度の服役でした。帰ってから、まだそんなに経っていないので施設のプログラムに必死で取り組んでいます。

今回帰ってから私は二つの体験をさせて貰い思った事をこの度少し書かせて貰う事にしました。

一つ目は、中間施設の所有している鳥取県にある療養所というか保養所の山奥にある、それは淋しい所でした。着いた時はビックリしましたが、仲間達と一緒に山の中を散歩したり小川のせせらぎを耳にしたりで、全てが新鮮で心が洗われる様な気持ちの良さを味わうことが出来ました。

夜はまた仲間達と飯を作り風呂に入れて貰い馬鹿話にふけり楽しい夜を過ごさせて貰いました。でも山の中ということもあり、11 月というのに真冬のような寒さには驚きましたが、夜の星のきれいな事に再度驚きました。何故か今度こそは社会で生きていける様に頑張ろうと思いました。

二つ目は神戸にある森林公園という所に紅葉を見に行き、その森林公園の中で写生をした事でした。公園の中は驚く程広く紅葉もピークという事もあり、随分と多くの人々が訪れていました。そして見事に色づいた木々を見ながらの写生スポットを探しながらの散策で年老いた私には少し早い面もありましたが、何とか場所を探して絵を描きました。私は正直言って一度も絵等描いた事もなく横に居る仲間達の写生を覗き見しながら描きましたが、正直絵という物ではありませんでした。でもなんだかやり遂げたという満足感にひたる事が出来て、とても気分が良かったです。

この二つの体験が自分に社会に居れば必ず良い事がある、頑張れと応援してくれているエールの様に思いました。これからもいろいろ体験させて貰い、自分自身の回復の道を進んで行こうと思います。



リバークルーズ

タカ

大阪湾を経て桜の名所であるおおさかじょうまでのリバークルーズに、新しい仲間の歓迎も含めて行ってきました。西宮マリーナから出発して舞州、夢州、ゴミ処理場、ユニバーサルスタジオジャパンを見ながら淀川を登って行きました。大阪万博の会場も見ることが出来ました。いつもは車でメンバーの送迎をしているのですが、海では広いし信号もないし渋滞もないので悠々として何かええ感じやなと思いました。

川になるといつもの景色が戻って来て中之島の中央公会堂、大阪城公園等を見ました。中央公会堂は好きな場所で地下のアウェイクというレストランにオムライスを食べに行きました。Uターンして帰っていくのですが、今度は西宮を通り越して HAT 神戸やハーバーランドを見ました。オープン前ですが、ジーライオンアリーナというイベント会場が出来ていて震災から 30 年の節目だそうです。

薬を使っていた頃は一人の船で行く当てのないコンパスのないというか地獄へ一直線の道だったのが現在は仲間と共に幸福への道を進んでいるのだと思います。これから先は自身の幸福の舵を切っていければいいなと思いました。ありがとうございました。



群馬でのワークショップに参加して

ブラック

初めて NA につながったとき、神とかスピリチュアルという言葉にすごく抵抗を感じていた。それは一年のクリーンを過ぎた今も、心の底から理解しているとは言い難い。

「今度、群馬でワーキングがあるみたい」群馬？ 今年は名古屋、静岡と各地で色々な行事があり、かなり自分なりにハードなスケジュールだなと感じるところがあった。

アルコールに問題のある私は、どちらかという覚醒剤のアディクトが多い NA には、なかなか馴染めないところがあった。アルコールは薬物であるという言葉に、いつもひっきりを感じていた。どこか頭の片隅に、アルコールは法律に違反しているわけではない、とあったからである。でも、NA に参加しているうちに、種類こそ違えど、アルコールも覚醒剤も同じ薬物であり、それを絶つには同じような苦しみがあると感じられるようになってきた。

今回の群馬では、ハワイ、ギリシャ、カナダなど各国からスピーカー達が来日していたが、ギリシャの女性のスピーカーは一週間前に群馬に行くことを決め、本当にこのイベントに参加したと聞くと、すごい行動力であると感じた。その人の言葉に「私は一週間前に日本に来ることを決めました。でも本当は何十年もかけて、ここに来たのです」という言葉がとても印象的であった。その言葉の中に、彼女がこれまで経験してきた、薬物をやめる苦しみ、アディクトであるということが、短い期間ですべて終わらないと言っているように聞こえてきた。ハワイの 50 年のクリーンを持っているオールドタイマーも、すごく長い時間をかけて、あの笑顔がでけるのだと思うと「今日一日」という言葉が重く感じられる。

神、ハイヤーパワー、スピリチュアル、どの言葉も初めに NA につながったとき、とても理解できないと思っていたし、これからも理解していくことはないと思っていたが、今回の群馬行きで、外国の仲間、日本の仲間達の曇りのない笑顔を見たとき、言葉では理解できない何かを感じることができた。

「生きているだけで丸もうけ」生きているからこそ、あの笑顔に触れることができ、少しだけ幸せな気分になった。



活動報告

10 月

ひょうごコミュニティ財団市民大交流会参加
子ども食堂会議～中央区文化センター～
ひょうごこころの医療センター あいあい祭り参加
NA バースデーブラックさん 1 年
リバークルージング大阪南港
高松刑務所薬物離脱指導講師
NA ワールドメンバースピーカー@群馬

11 月

鳥取智頭冬支度
加古川学園家族相談
加古川学園模擬ミーティング
はんなクリニック訪問(沖縄)
FM ぎのわん収録参加
関西医科大学リハビリテーション学科講演
森林植物園絵を描く会
法務省矯正局特定生活指導担当者研修@広島 講師
消防訓練本部 & B 型

12 月

加古川学園カウンセリング & 模擬ミーティング
やまぶき財団様姫路デイセンター訪問
有園基金申請説明会 ZOOM

定期開催

姫路家族教室 毎月第2土曜日
神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日
姫路無料家族相談 毎月第1火曜日
尼崎無料家族相談 毎月第1水曜日
垂水病院すまーぷ参加 毎週金曜日
垂水病院ダルクメッセージ毎月第3火曜日
保護観察所すまーぷ 毎月第4金曜日
ヨーガプログラム 毎月1回
子ども食堂開催毎月2回
TIC 学習会毎月1回



近況報告・活動予定

このニュースレターが届く頃は年末の忙しい時期だと思われます。今年一年ありがとうございました。

あつという間に時は過ぎていきます。3 月の年度末まで、忙しい日々は続きますが、その忙しさの中にも「仲間と過ごす時間」「家族と過ごす時間」も含まれます。でもその時間は自分にとっては人生が動いているしゅんかんのじかんだとつくづく感じています。

本来ならばさまざまな報告を年末号でお知らせしたかったのですが、年始のたくさんの行事がまだ整備中です。

年明けには、皆様にさまざまなセミナーなどのお知らせをお送りできと思っています。

私はいつも、外部の仕事をしていると「仲間に悪い」と思い、仲間と過ごしていると「家族に悪い」と思ってしまう。私の親もそういう人だったので遺伝ですね。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッションルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000 円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1口 3000 円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談

相談の内容に関する秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘置所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間 OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献品

山崎 圭 様 林谷 みどり 様 三輪 教子 様

ご献金

明石キリストの教会 様 橋本 成年 様 千葉菜の花家族会 富井 建夫 様 芦屋神社 様

畠山 茂祥 様 伊佐 将人 様 間 明子 様 木村 真知子 様 他匿名希望 1 名

(令和 6 年 10 月 11 日～令和 6 年 12 月 5 日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

寄付や献品のお願い

年を越すというのは私たちにとって大きな作業です。一番 1 年で寂しくなる時です。この時期はみんなと暖かく、美味しいものを食べて普通の家庭のように過ごすことが一番平安です。お正月にみんなでおしゃべりするようなものが余っていたら寄付していただくと非常に助かります。また、ご家庭で余っている食料品（米、野菜、乾物、味噌、醤油など）から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。たくさんありましたら、車で取りに行くこともできます。洗剤などもたくさんいただいたので非常に助かっています。今非常に助かるのは、食材や日用品です。コロナの影響で外出が少ないため、ストレス発散には、どうしても食事が進んでいきます。心苦しいですが、ご協力をよろしくお願いいたします。また、ボランティア活動も気軽にお声掛けください。私たちは体力だけではありませんので、荷物運搬など気軽にお声掛けください。日々の感謝をそのようなことで返したいと思っています。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 653-0041 神戸市長田区久保町 7-7-18

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

さあ、皆様にとってこの 1 年はどうでしたでしょうか？私たち依存症者は何年経っても、立ち止まって仕舞えば「くだりのエスカレーターを逆からのぼっている」と同じで底をついてしまいます。また全く同じ逆戻りではなく「進行性の病」なのでさらに巧妙にそこに進んでいきます。例えば久しぶりにミーティングに参加してみたらよくわからないけど安心が生まれ、不安が取り除かれて「ハッ！」とするというのもそれです。回復の道というのは用心は必要ですが解決策は必ず僕らにはあります。それに気づき実行するのに何年もかかってしまうものです。そんなことをミーティングで手放してみませんか？

神戸ダルク ニュースレター Threshold (出発点) Vol.45

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規

印刷 プリントパック

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1 部 100 円 年会費 3000 円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階